

令和7年10月28日

中標津町議会議長 後藤一男様

中標津町議会議員 山口雄彦

研修報告書

以下の視察について、次のとおり報告します。

- 1 観察名 文教厚生常任委員会道内視察
- 2 観察先 北見市立西小学校（北見市教育委員会）
- 3 観察日 令和7年10月8日（水）
- 4 観察事項 ICT教育の取り組み及びGIGAスクールについて
- 5 成果

ICT教育を学ぶため、北見市教育委員会に依頼し、北見市立北見西小学校を見学させていただきました。

北見市立の学校概要の説明後、GIGAスクール構想の説明がありました。

令和2年度に高速大容量のWi-Fiをはじめとした環境整備や、児童生徒、教職員用の端末8,000台の取得。台数の多さに驚きますが、小学校、中学校、義務教育学校合わせ36校もあるので納得です。令和3年度は授業での端末利用開始や授業の公開を行い、令和4年度、5年度、6年度はICT指導力向上研修、端末活用推進チームの巡回、保護者体験会など計画的に進めています。特に注目したいのは、教職員に対する指導力や授業力向上のための研修が年3回以上も行われていることです。ICTが苦手な先生も大変助かる仕組みだと思います。また、端末活用推進チームの巡回ですが、ICTのスペシャリストが各校を巡回して指導しているそうですが、これについては北海道の予算を使って行っているそうで、中標津町でも出来るのか確認すべき点です。

この他には先進校の視察を4回ほど行っているようですが、やはり外を見るということもとても大切な事なのだと思います。

説明の後、実際に授業の様子を見学させていただきました。低学年、中学年、高学年の2年生、4年生、6年生でしたが、まず驚かされたのが、キーボードの扱いが非常に上手



北見市立西小学校で説明を受けました

でした。もちろん個人差はあるのですが、大人と遜色がないように見えました。授業内容についても、例えば2年生は掛け算の5の段を暗記していましたが、暗記する方法としてタブレットをうまく活用していました。こんな授業は見たことがなく、とても感銘を受けました。中標津町でもこのような授業をしているのか今後、実態を把握していきます。

2 観察先 大雪かみかわヌクモ（上川町）

3 観察日 令和7年10月9日(木)

4 観察事項 未来型公民館について

5 成果

上川町にあるヌクモという未来型公民館を視察させていただきました。

上川町議会の濱田議長、上川町地域魅力創造課金野課長、清光係長などのお出迎えを受け、ヌクモの詳しい説明を受けました。訪問前は子ども、お母さん、お年寄りがコーヒーを飲みながら3世代で交流している遊び場なのかと思っていましたが、廃校となった東雲小学校の建物を残すため、改築してこの施設にしたことや、民間企業のチームラボとの連携など、役場職員とは思えない熱量で語っていました。

施設はカフェスペース、フリースペース、プレイルームの3区画になっており、コーヒーとケーキを楽しんだり、フリースペースで体を動かして遊び、有料となりますがプレイルームでプログラミングを学ぶなど、子どもたちにとっては楽しい場所だと思います。

特にフリースペースの5メートルもある湾曲した壁は大変迫力があり、それは巨大な滑り台らしいのですが、子どもたちは時間を忘れて楽しむはずです。

利用者は平日で15人、土日100人でうち2割が町民で8割が層雲峡温泉のお客様だそうです。上川町の市街地から5キロ程度離れているので、町民の方、特に子どもたちだけで来ることは難しいことが町民の利用率が低い原因の一つかもしれません。また、カフェとプレイルームの収入だけでは運営が難しいように思われ、そこが課題かと思います。

最後に雑談の中で濱田議長が、数年後この施設がどうなっているのか見守ってくださいとおっしゃっていましたので、今後もヒントを得るため注視していきたいと思います。



濱田議長より歓迎のご挨拶をいただきました

2 観察先 富良野市役所

3 観察日 令和7年10月9日(木)

4 観察事項 ごみ資源化の取り組み

5 成果

富良野市の一般廃棄物処理計画とリサイクル事業の説明を受けましたが、リサイクル事業ありきで計画策定されていますので、一般廃棄物処理計画がものすごく細かい計画となっています。ごみ処理の基本体形として、生ごみ、固形燃料ごみをはじめとして、細かく 14 種類にも分類されています。ということは分別も 14 種類ということで、日常生活で 14 種類のごみ袋を使って分別することが、いかに大変な事か、私や私の家内は果してできるだろうかという事が、まず初めに思いました。

富良野市でもその辺の事は危惧していたようですが、外国人への周知として、ポスターやカレンダーの多言語化、個別指導や民泊事業者へのチラシ配布、転入者への分別ルール説明、市民への周知やごみの不適正排出者への指導などでなんとか運営しているようですが、不適切なごみには収集しない理由を記入した不適切シールを年間 3,000 枚から 4,000 枚ほど使用しているそうです。

後半はリサイクルセンターを視察しました。ごみを固形燃料として製品化し、販売されているということが、当委員会として一番興味のあるところです。



どれもきれいに陳列されていました

最初にリサイクルマーケットを見せていただきました。ごみとして出された、まだ使用できる服や鞄をきれいにクリーニングして 100 円で販売しているそうです。100 円の意味は、ごみ処理で協力いただいている市民への還元だそうです。

固形燃料の作製機械などを見させていただきましたが、説明を受けますとこれも簡単にはいかない事業だと感じました。作れても販売できる場所が無ければだめだからです。富良野市の場合は 250t を市民が購入、2200t ほどを札幌の事業者が購入してくれているそうですが、もしも中標津町で固形燃料を作成できたとして、果して販売先はあるのでしょうか。札幌などの遠い街では、運搬の経費がかかりすぎて、採算は合わないでしょう。生ごみをし尿や汚泥とまぜてたい肥を作り、農業者や市民に販売していることも、お話の中でありましたが、そちらの方が現実的かもしれませんと感じました。



高橋環境課長より説明を受けました

- 2 観察先 置戸町役場**
- 3 観察日 令和7年10月10日（金）**
- 4 観察事項 子ども・子育て支援について**
- 5 成果**

置戸町は人口2,500人ほどの小さな町です。しかし、子育て支援については先進地といつてもいいでしょう。そのくらい支援は充実しています。そんな置戸町を生で感じてみたいと今回、視察させていただきました。

庁舎に着いたところ驚いたのが、町長を始めとして11名もの置戸町職員のお出迎えを受けたことです。この視察に向けて当委員会からの質問を提出していたのですが、そのことにきちんと答えられるよう、その部署の責任者を全員出席させてくれたそうで、非常にありがたく恐縮しました。

研修は当委員会からの質問を担当課長やセンター長などが回答する形で進められました。当然、的確で当委員会委員も十分理解を深めたのではないでしょうか。余談ですが移住者応援金100万円という事業があり、もしかすると来年あたり、うちの委員が一人移住しているかもしれないくらい、魅力的な施策に取り組まれていました。



置戸町の深川町長より歓迎のご挨拶をいただきました